

楽しい学び **de** クラスをつくる

Vol.05



大滝 文平

「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」 に向けた手立てがいっぱいです



社会科授業開きの第一声！

必ず子どもに伝えていたことです。「家庭科？」

「先生は、一体何をいつているのだ？」

子どもたちはザワザワ、ソワソワ「？」

が飛び交っています。さあ、社会科の学習が始まりますよ！

「社会科は

『おかし』をつくる

学習ですよ！」



○子どもが見通しを持って学習するために！

学習指導要領で示された子どもの資質・能力を最大限に育成するために、子ども一人ひとりに沿った「個別最適な学び」と、その個性を発揮するための「協働的な学び」の充実が求められています。多くの研究会でもこれに沿った取り組みをしているのが研究テーマからも見受けられます。「個別最適な学び」「協働的な学び」それぞれの学びのイメージは何となくできるものの、授業としてどのような学習を展開すれば良いのか？ また、それぞれを「一体化」とは？ 今号では学び方の具体を通して「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」の充実に向けて考えていきましょう。

冒頭に示した「『おかし』をつくる学習」とは、学び方のキーワードを伝えたものです。「お・か・し・つ・く・り」です。この学び方を子どもがつかむことで、学習の見通しを持つことができたり(学習計画)、1時間の学び方を考えたりする姿が見られました。「個別最適な学びと協働的な学びの一体化」が伝えられた際に、冒頭の手立て「お・か・し・つ・く・り」が思い出されました。子どもが学び方をつかみ、自ら学ぼうとする手立ての一例としてお読みいただければと思います。では、次ページへ！

日本文教出版の Web サイト

日文 🔍



◆ vol.05 は！

個別最適な学びと協働的な学びの一体化
手立てのエッセンスが
いっぱい！



※本冊子掲載二次元コードのリンク先コンテンツは予告なく変更または削除する場合があります。
本資料は、一般社団法人教科書協会「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。



心が動く、その先へ。

日本文教出版

① 学び方をつかむために！



冒頭の続きです。1枚の絵を提示します。横浜が開港(1858年)してから数年後、最初の波止場を改修した時のようすです(横濱明

細全圖、横浜開港資料館蔵)。

子どものこんな声が聞こえてきそうです。

- ① あれ？左側波止場の先が曲がっている！
- ② これで船は泊められるのかな？
- ③ 何か理由があるのではないかな？
- ④ 船を泊めるための工夫かな？
- ⑤ 当時のようすをもっと調べてみよう。

この一連の子どもの姿を、

①・② 「お」や「つ」と「お」も(思)う姿。

③・④ (①②について) 「か」んが(考)える姿。

⑤ (③④を) 「し」ら(調)べようとする姿。

ここまでが「お・か・し」の学びです。

「調べてわかったことがあると、どうしたいですか？」教師が問うと、「伝えたい！」という声が

挙がることでしょう。そうです、「つ」た(伝)え合うです。

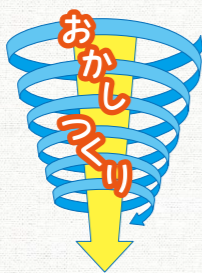
伝え合う学習活動を進めると、「おや？『お』や『か』んがえたい」ことがさらに深まります。

「『し』らべる」こともより具体的(焦点化)になります。そして、伝え合う姿も活気に満ちた姿が見られることでしょう。

「お」～「つ」の学び方を「く」(繰)り返すことが深い学びになるのです。

このような学び方を具体的な事例(昨年度の題材など)を使いながら最初に伝えていきます。覚えやすい頭文字なので、すぐに定着します。

あれ「り」は？……のちほど紹介します！それから、波止場の先が曲がっている理由も！



② 学び方をつかむことが「個別最適な学び」と協働的な学びの一体化につながる！

1. 問いを持つことが「個別最適な学び」の入り口！

「何で？」「おかしいよ？」「えっ、そんなに！」

子どもが事象と最初に出合う時、ここでどんな反応が子どもから見られるのか。(先生の目の前にいる)あの子は何を感じるかな？楽しみながらイメージします。だからこそ、事象との出会い方は十分に練ってほしいなと思います(この特集もやりたいですね!)。ここまでが「お」になります。

子どもたちのステキな反応に問い返します。わたしは、「(その反応は)どういうこと？」と投げかけることが多くあります。すると子どもは自身の反応を見つめて、

「きっと～だからかな？」

「だって、自分だったら～すると思う。」

など、考えを持ったり、仮説を立てたりします。これが、問いにつながります。「か」の姿ですね。見つめた事象は同じですが、子ども一人ひとりの考えで良いのです。また、一人ひとりがどのような考えを持っているかを見取ることが大切です。

この見取りが、一人ひとりの調べ学習への助言になります。「し」です。

「〇〇さんの考えだったら～を調べてみると良いね」

「この資料なら、〇〇さんの考えに合うかも」

など、調べ学習に困っている子や、さらに考えを深めようとする子など、個に応じた支援を心がけたいです。「お・か・し」の学習活動では、主に「個別最適な学び」につながる手立てになります。

2. 「伝えたい」の思いが協働的な学びのカギとなる！

自分の考えや仮説を持って、自分なりの調べ学習で「わかった!」「なるほど!」「おもしろい!」など、発見すると、「伝えたい」思いは高まることでしょう。

ここでも、どの子がどのような調べ学習をして、何を獲得できたか(できなかったか)を見取ると、協働的な学びの学習展開は広がりを見せることでしょう。

3. 「協働的な学び」さらに……

① 授業場面と板書から

伝え合いたい気持ちが高まりながら授業にのぞみます。学習の始まりの場面です。

「今日は～(本時の学習問題)についてだよ」

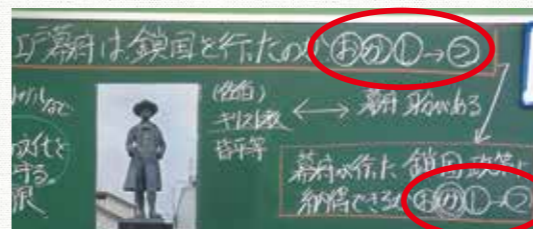
「いちばん大事なのは『つ』だよ」

「先生、黒板に『つ』を大きく書いて」

「でも、みんなの意見を聞いて『お』『か』もするね」

このように、本時でどのように学ぶかを、学習問題とともに確認するところから始まります。これも、学び方を学んでいくことで見られる子どもの姿です。

学習問題とその学び方の板書です(6年『江戸幕府の政治』より)。



このように、本時の学び方はもちろん、次時の学習問題についても学び方が共有できます。

② 考え方や調べ方を見取ること

伝え合う場面では、積極的に伝えようとする子、どの場面で伝えれば良いか悩んでいる子、伝えるのを躊躇する子、など様々な子どもがいることでしょう。

調べ学習を頑張ってきた子との会話です。

T「すごいね。よく調べてきたね」

C「でも、いっといえば良いか、自信がなくて……」

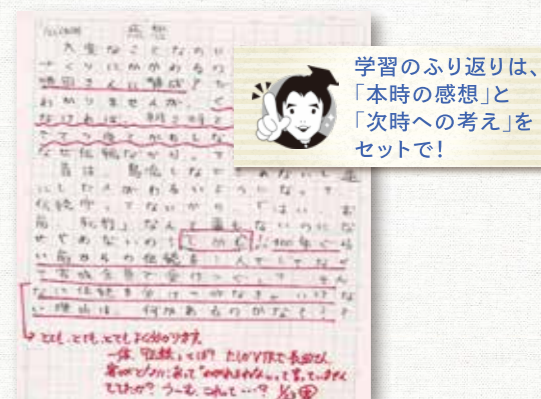
それまで発言することが少なかった子が、調べ学習を通して「発言したい」という思いが芽生えているのです。

T「ここぞの場面で指名するから大丈夫だよ！」

見取りができてからこそこの意図的指名です。もちろん、協働的な学びの姿は、発言がすべてではありません。その子に応じた、考えの表出を支えるのが教師の役割だと思います。

③ ふり返りが個に返る

板書例のように、伝え合うことで、次時の学習問題がつくり出されます(矢印の下の囲みです)。みなさん、授業のふり返りでは、子どもは何を書いていますか。多くは、その授業でのふり返り(感想)だと思えます。ここでも、次の学習問題について、自分の「か(考え)」を書くようにすると、その子を見取りになり、「し(調べ学習)」の助言ができます。もちろん、意図的指名も!「く(繰り返す)」ですね。



これは学び方の一例です。ポイントは、

- 子どもが学び方を学ぶ。
- 子どもが問いをつかむ、個の考え調べ方を保障する。
- 教師は精一杯見取る!
- 教師は見取りから協働的な学びの構想を広げる!

開港当初、横浜の海は波が強く、波止場に近づくのが困難だったようです。そこで、少しでも波の影響を受けないようにあのような形になったそうです。



(横濱海岸通之圖、横浜開港資料館蔵)

「社会的な見方・考え方の資質をはぐくむ」ことで、子どもは成長します。そのようにして学んだ子どもたちは「り」っぱ(立派)な社会人になることでしょう!

(横浜市立箕輪小学校 大滝 文平)

個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させた学びをつくらう！

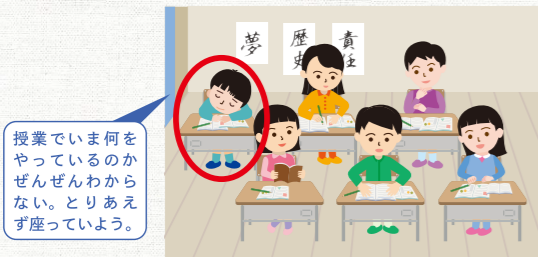
協働的な学びをめざす中でも、**決して個別最適な学びを疎かにしないこと！**

5年生 5月実施

単元名 「(気候や)地形に特色のある地域の暮らし」
～(旭川のAさんと)孺恋のUさんのキャベツづくりを追って～

〈実践者〉横浜市立平沼小学校(当時) 石川 和之

Prologue こんな子、いませんか？



授業でいま何をやっているのかぜんぜんわからない。とりあえず座っていますよ。

「この子を何とかしたい！ワクワクしながら学ぶことができるようにしたい！」

そんなふうに思ったことはありませんか？『対話的な学び』を通して、『深い学び』にいたらない、そう思って「協働的な学び」をめざしても、結局は、クラスに数人、このように「とりあえず座っていますよ」という子がいる…。

決して「個別最適な学び」を疎かにしない！こういった子どもの授業時間を、「おもしろ

い！」と思えるような、学びに没頭できる時間に変えたい！そんな思いを実現する時に、いちばん大事なことは、「子ども一人ひとりの学習問題への本気度」です。

Scene 1 単元の導入から意欲アップ！

個別最適な学びを疎かにしないポイント①

単元の見通しは、子ども自身こそ、持てるようにすることが大切！
そして、子どもの意欲アップをねらう大事な時間、それが単元の導入です！

本単元は、『地形』や『気候』などに着目して、国土の自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉えることが、ねらいです。さらに、事例地の選定に当たっては、山地や低地など「特色ある地形条件の地域」と、温暖多雨や寒冷多雪など「特色ある気候条件の地域」の中からそれぞれ一つずつ取り上げることであります。

今回は、地形条件では「山地」、気候条件では「寒冷多雪」の地域をそれぞれ取り上げ、まずは、寒冷多雪地域の人々の生活について「旭川市の越冬キャベツづくり」を通して学びました。そのうえで、下の2枚のキャベツ畑の写真を見比べて気づいたことを出し合いながら、山地の事例地として、孺恋村のキャベツづくりを通して学んでいくための「単元を見通す学習問題」を、子どもと一緒に作りました。

【寒冷多雪地域の事例地】



寒い地域の人々の工夫として、旭川のキャベツ農家の方は、収穫後のキャベツをそのまま畑に残して雪の中で保存していたね。そうすることで、甘いキャベツになっていたよ。

【山地の事例地】



土地の高いところでのキャベツづくりって、大変そう。
どれくらいの高さの山に囲まれているんだらうね。

比較

周りは山ばかりだよ。山に囲まれたところでキャベツをつくっているんだね。

一面にキャベツ畑が広がっているね。

3haって、結構広い畑だね。

孺恋村などの土地の高い地域では、その地形を生かしてどんな生活をしているのかな。

Scene 2 調べ方は、自分でチョイス！

個別最適な学びを疎かにしないポイント②

単元前半の、子ども一人ひとりが必死になって調べ、自分の考えを整理するこの時間。何をどう調べるかは、子ども自身が選べるようにします。
キーワードは自己選択！

単元を見通す学習問題に対する予想を出し合う中で、その予想は本当かどうか調べてみよう、二つの学習計画を立てました。

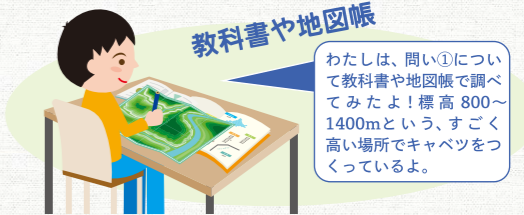
- ① 夏キャベツをつくっている孺恋村は、どんなところなのかな(地形はそんなに高いところなのかな)。
- ② 孺恋村のUさんは、どうやってキャベツをつくっているのかな。

これらの問いについて、問い①と問い②のどちらから調べるか、どうやって調べるか(教科書？地図帳？資料集？図書室の本？GIGA 端末を使って？土日に行ってみる？等々)については、子ども自身が決めました。多くの子どもが問い①から調べはじめますが、問い②から調べはじめる子どもがいても絶対に否定しません。ここでは、徹底的に、「個別最適な学び」を実践します。



GIGA端末と図書室の本

わたしは、問い②について図書室の本やGIGA 端末で調べてみたよ！7～10月の収穫の時期は、朝3時から仕事をしていて大変そう！



教科書や地図帳

わたしは、問い①について教科書や地図帳で調べてみたよ！標高800～1400mという、すごく高い場所でキャベツをつくっているよ。

これらの事実は、かなり子ども自身で調べられます。中には、白地図に、どれだけ標高差が激しい地形なのかまとめはじめる子どももいて、「段ボールで地形の凸凹をわかりやすくしてみたい！」という子どももいました。時間の許す限り、子ども自身のこのような意欲には、是非、こたえてあげたいです。

Scene 3 なんで？おかしい！を発見！

個別最適な学びを疎かにしないポイント③

子ども一人ひとりが自己選択した学びに没頭した時間。これのみで単元を終えるのは本当にもったいない！
自分だけで学んだ中では気づかなかった新たな気づき(新たな問い)を見出す、さらに深い学びにいたる大事な時間です。

段ボールで子どもたちとつくった地形図とともに、孺恋村のキャベツ農家Uさんがどうやってキャベツをつくっているのか、調べたことを次のように共有しました。

この共有から、わかったこととともに、あらためてわからないこと(新たな問い)「どうしてUさんは4回にも分けてキャベツをつくっているの？」を見出すことができました！

孺恋村のUさんは、どうやってキャベツをつくっているのかな。(米づくりの学習とは異なり、キャベツづくりの努力や工夫には深入りしないように気をつけました。)

旭川 Aさんの農事暦 (のうじこよみ)	旭川のAさんは、苗植え→収穫を1回しかしていないのに…
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月	学校で野菜づくりをした時も、苗植え→収穫は1回だけだったよ。
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 定植(苗植え) → 収穫 → 雪の中(保存) → 出荷	でも、孺恋村のUさんは、4回もしているよ！7月は、苗植えも収穫もあって忙しいそう。
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月 定植(苗植え) → 収穫 → 定植(苗植え) → 収穫 → 定植(苗植え) → 収穫 → 定植(苗植え) → 出荷	どうして4回にも分けているんだらう…

Scene 4 出ました！
生活経験との結びつき！

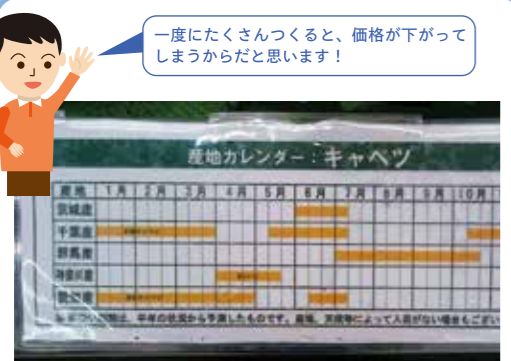
個別最適な学びを疎かにしないポイント③

社会的事象の意味について腑に落ちるには、子ども自身が自分の生活経験との結びつきを見つけられることが大切です。このタイミングで初めて、「あ〜、そういうことか！」となります。

子どもが見出した「新たな問い」、学習計画を立てた時には設定できなかった問い、これこそが「深い学びにいざなう問い」であり、子どもの本気度をさらに高める問いです。

こういった問いへのさらなる追究の中で、子ども自身が「あ〜、そうか！」となる場面をつくり出したい！本実践でいうと、授業後半に発したNさんの「おしるこ発言」でした。

まず、学習問題「どうしてUさんは4回にも分けてキャベツをつくっているの？」に対して、子どもたちはこれまで調べてきた事実をもとに、自分の考えを出し合いました。



一度にたくさんつくると、価格が下がってしまうからだと思います！

産地カレンダー：キャベツ

産地	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
千葉県												
群馬県												
埼玉県												
茨城県												
栃木県												
東京都												

(子どもが0スーパーマーケットの野菜売り場で見つけてきたもの)

この資料を見てください。他の県がつくっていない4か月間に売るためだと思います。

そんな中、次第に子どもたちは、「標高が高くなればなるほど涼しくなること」と、「標高が低いところから順番に苗を植えていくのではないか」という予想との関連に気づきはじめます。この授業でわたしがしたことは、子どもたちがつくった立体地図（Uさんのいくつかの畑の位置だけはわかるもの）に、それぞれの畑の


苗植えの時期がわかる表示を四つ、順番に置いただけでした。



そのあとは、びっくりするほど子どもたちの発言が続きました。

- ・あっ、わかった！わかった！
- ・察した、察した！そういうことか！
- ・高さを利用しているんだよ！すごいすごい。

その中でのNさんの「おしるこ発言」でした。



わたしは、山に2回、登ったことがあるんですけど、どっちの山に登った時も、最初は寒くなくて冷たいお茶をガブガブ飲んでたのに、頂上に近づけば近づくほど、なんかすごく寒くなってきて、結局、頂上では、あたたかいおしるこを飲んだんです！

この児童は、ふだんとてもおとなしい子でしたが、この発言をきっかけに自信を持ちはじめました。というのも、「わかる！わかる！わたしも同じような経験があるよ！」といった友だちからの共感を呼んだからでした。



子どもの本気の追究を信じて、是非、学びを子どもに委ねてみませんか。必ずや「学びに没頭する子ども」が、少しずつ増えはじめてくるはずです！

「愛のチョークで引田が斬る！」

(横浜市立中山小学校・引田雄士)



今回は、個別最適な学びを疎かにしない石川殿の思いが伝わってきた！素晴らしい実践じゃった！ここで満足せず、みなの方に、石川殿の思いをもっともって聞いて、深掘りして伝えていこう！石川殿、よろしく頼むぞ！

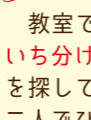
「おしるこ発言」をした子どもはその後どうなったのじゃ？



よく聞いてくれました！「おしるこ発言」をしたNさんは、この授業をきっかけに、社会科だけにとどまらず、どの学びに対しても自信を持ちはじめ、進んで自分の考えを伝えることが増えていきました。6年生になり、それまでの彼女では考えも及びませんでしたが、何と自分から委員会活動の委員長に立候補！1年間、頑張り通しました。卒業後に学校の周年行事で会った時、何と！この「おしるこ発言」のことを覚えてはいるではありませんか！数年前の、しかもたった1時間の授業のことを覚えているなんて、びっくり仰天でした！

「たかが授業、されど授業」、1時間の授業が、その子のその後の人生への大きな大きな転機となることもあるんですね。あらためて、1時間1時間の授業こそ、日々大切にしなければならない！そう、心に誓った瞬間でした。

個別最適な学びと協働的な学びの一体化の石川殿の思いについてもっと聞かせてくれ！



教室では、「今日は『個別最適な学び』です」「明日は『協働的な学び』をやりま〜す」と、いちいち分けられるものではありません！クラスみんなで話し合っている、教科書で事実を探している子どももいれば、じっくりと資料を眺めている子どももいます。事実に対して二人でひそひそ話し合っている子どももいれば、知りたいことが出てきたらそのタイミングで辞書を取りに行く子どもも良いのです。子どもに学習を委ねることで、自分から学びを選択していく、それこそが大事なのです。そこには、「個別最適な学び」や「協働的な学び」といった言葉では語りきれない、素晴らしい姿が表れてくるということです。



石川殿の実践は、いつも子どもが中心！それは、石川殿が一人ひとりの子どもを丁寧に見取っているからできることなのじゃ！子どもに委ねることで、子どもは自分から進んで学習に取り組む！石川殿が、子どもの姿を大切にしている気持ちが伝わってくるぞい。

みんなで楽しく学ぼう！先生たちの勉強の場(今年で7年目)紹介！
社会科を中心とした、子どもが主役の学びを創造し合う場。それが「北学場(きたまなば)」




参加費 無料！

遅刻・早退 OK！事前申し込みも不要！

北学場 〈連絡先〉 大滝 文平
kitamanaba@gmail.com

横浜市北部(青葉区、都筑区、緑区、港北区)の社会科有志が中心となって発足した、緩やかなお勉強の場です。

発足して7年目になりますが、いまでは横浜市内・市外の初任者を初め、経験の浅い先生、中

堅・ベテランの先生、管理職やOBの先生などなど、あらゆる立場の先生方がフラットな関係で、ざっくばらんに語り合っています。ご興味があれば、ご連絡(メール)をいただくと案内チラシを送らせていただきます。

YUKIKOの部屋 *Check point!*



Q 学ぼうとする意欲があまりない子には
どうしたら良いですか？



A

クラスには様々な子どもがいますので、好きなことや得意なこと、興味のあることもそれぞれ違います。なので、全員が意欲的に取り組める授業をするのは、とても難しいことですね。でも、諦めずにめざしていきたいことでもあります。

そのためには、まず、学校生活全体で、たくさん子どもたちと関わり、見取ることが大切になります。子どもたちと話す中で、いま、何に興味を持ち、どんなことを考えているのかを知り、それを授業の中で取り入れると、ふだんあまり学習に意欲的ではない子どもも食いついてきます。その時々々の流行りものや出来事を取り入れても良いですね。

もう一つは、やりたいことを実現できる活動を、子どもたちに委ねることも大切です。めざすは、子どもたちが主体の授業。教師が指示ばかりして、それを子どもが実行するのではなく、「みんなはどうしたい？」「何をどうやって調べたい？活動したい？」などと聞いて、教師もクラスの一人として一緒に考えたり、話し合ったりしてつくり上げていきます。お互いを信頼し、共に高め合える関係であれば、「みんなでわからないことを解決したい」という授業になります。こうした授業では、子ども同士も良い関係を築き、ある子の発言に対して「自分はこう思うな」と話し合いが始まったり、ある子がした行動に周りの子が興味を持って集まって一緒に活動したりと、自然と協働的な学習になります。

協働的な学びは、一人では思いつかなかった考え方や行動を助長するとともに、その子の成長も促します。そして、自信がつき、「今度は〇〇をやってみようかな」と、次の意欲やチャレンジにつながります。これからも、子どもたちの新たな一歩のためにできることを、日々、考えていきたいと思っています。

(横浜市立本牧小学校 武藤 由希子)



※本冊子に掲載しているイラストはすべてイメージです。



「楽しい学び de クラスをつくる」では、
みなさんからの質問をお待ちしています！
(連絡先: 北学場) kitamanaba@gmail.com



楽しい学び de クラスをつくる (vol.05)

日文教授用資料
令和6年(2024年)2月29日発行

編集・発行人 佐々木 秀樹

日本文教出版株式会社
〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261
FAX: 06-6606-5171

本書の無断転載・複製を禁じます。

CD33716

日本文教出版株式会社

<https://www.nichibun-g.co.jp/>

大阪本社 〒558-0041 大阪市住吉区南住吉 4-7-5
TEL: 06-6692-1261 FAX: 06-6606-5171

東京本社 〒165-0026 東京都中野区新井 1-2-16
TEL: 03-3389-4611 FAX: 03-3389-4618

九州支社 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-11-14
TEL: 092-531-7696 FAX: 092-521-3938

東海支社 〒461-0004 名古屋市中区葵 1-13-18-7F-B
TEL: 052-979-7260 FAX: 052-979-7261

北海道出張所 〒001-0909 札幌市北区新琴似 9-12-1-1
TEL: 011-764-1201 FAX: 011-764-0690